



コードと形式

この章では、CLI ステータス コード、およびインポートとエクスポートの形式について説明します。

返されるステータス

nrcmd プログラムは、標準出力ストリームに書き込まれる情報の最初の行に、ステータス情報を返します。データが 1 行に納まらない場合、**nrcmd** は、追加の行に情報を表示します。

最初の行は、番号で表されたステータスと、それに続くエラー ステータスの説明から構成されます。

ステータス コードは、すべて 10 進数で表した 3 桁の整数です。ステータス コードは 100 ～ 599 の範囲で、表 4-1 に示すようにグループ化されます。

表 4-1 ステータス情報

値	説明
100-199	正常な戻り
200-299	情報（警告）
300-499	エラー
500-599	重大なエラー

エラー以外の場合、Network Registrar は、要求された操作が完了したものと見なします。ただし、警告メッセージの中には、現在の状態が修正を必要とすることを示すメッセージもあります。重大なエラーが発生しない限り、コマンドライン インターフェイスは対話モードで実行を続けます。重大なエラーとは、重大なことが発生して、Network Registrar コマンドライン プロセッサを再起動する必要がある状況を意味します。

Network Registrar のエラー コード

表 4-2 は、Network Registrar のエラー コードについて説明しています。

表 4-2 エラー コード

番号	説明
100	OK。
101	OK（警告あり）。
102	このクライアントに対してリースがすでに予約されています。
103	リースが予約されていません。
104	リースが予約と共に削除されました。
105	リースが予約と共に作成されました。
106	アサートに失敗しました。
107	VPNID が現在少なくとも 1 つのスコープによって使用されています。
204	割り当てられたホストがプール ゾーンに含まれていません。
300	予期しないエラーです。
301	サーバが見つかりません。
302	見つかりません。
303	読み取り専用プロパティ。
304	ポリシーが見つかりません。
305	多すぎます。
306	コマンドが不明です。
307	キーワードが不明です。
308	パラメータが不明です。
309	引数が多すぎます。
310	引数が少なすぎます。
311	リース要求に応答がありません。
312	サーバから予期しない応答がありました。
313	一致しません。
314	オブジェクトが重複しています。
315	インポートに失敗しました。
316	無効です。
317	オープンに失敗しました。
318	MAC アドレスが見つかりません。
319	リースが見つかりません。
320	一般的なエラー。
321	名前が無効です。
322	機能がサポートされていません。
323	読み取りエラー。
324	IP アドレス リストが無効です。
325	タイプが無効です。
326	ODBC データベース アクセス エラー。
327	IP アドレスがプール サブネットに含まれていません。
328	同一の MX リソース レコードがすでに存在します。

表 4-2 エラー コード (続き)

番号	説明
329	同一の TXT リソース レコードがすでに存在します。
330	アドレスがプールに含まれていません。
331	ホストはすでにアドレスに割り当てられています。
332	アドレスはすでにホストに割り当てられています。
333	割り当てられていない IP アドレスはプールにありません。
334	アドレスがホストに割り当てられていません。
335	スタティック アドレス プールがイネーブルではありません。イネーブルにするにはプールを作成してください。
336	別のプールと範囲がオーバーラップしています。
337	ホストに複数の IP アドレスが割り当てられています。
338	アドレスに複数のホストが割り当てられています。<name> 引数を与える必要があります。
339	符号なし 16 ビット プリファレンス値が予期されています。
340	ODBC 3.x 以降が必要です。
350	一般的な DHCP エラー。
351	パートナー名を IP アドレスに解決できません。
352	指定したパートナーにはフェールオーバー オブジェクトがありません。
353	パートナーとまだ通信中です。
354	サーバはすでに partner-down 状態です。
355	回復中は partner-down に設定できません。
356	読み取り専用モードは使用できません。
357	セカンダリではありません。
358	プライマリではありません。
359	一致するゾーンがありません。
360	このゾーンに対する xfer はすでにスケジュールされています。
361	リースが予約されていません。
362	スコープがサーバで不明です。
363	IP アドレスがサーバで無効です。
364	MAC アドレスがサーバで無効です。
365	MAC アドレスの作成にサーバで失敗しました。
366	不明なオブジェクトがサーバにあります。
367	コマンドがサーバでサポートされていません。
368	サーバでの長さが誤っています。
369	矛盾するスコープがサーバにあります。
370	updateSMS がサーバで設定されていません。
371	サーバのメモリ容量に空きがありません。
372	SMS インターフェイスの .dll が正しくロードされませんでした。
373	updateSMS がすでにサーバで処理中です。
374	ワード配列が無効です。
375	updateSMS の引数が無効です。
376	リースが異なるクライアントに予約されています。

表 4-2 エラー コード (続き)

番号	説明
377	クライアントがすでに異なるリースを予約しています。
378	フィールド名または番号が見つかりません。
379	サブオプション名または番号がすでに存在します。
380	サブオプション名または番号が見つかりません。
381	ベンダーオプション名に無効な文字「-」が含まれています。
382	ベンダーオプションのデータが見つかりません。
383	ファイル名または番号がすでに存在します。
384	counted-array は配列型だけで使用できます。
385	読み取り専用アトリビュートは修正できません。
386	必須アトリビュートは設定解除できません。
387	vpn-id が無効です。
388	IP アドレス構文が無効です。
389	VPN 名が無効です。
390	IP アドレスの値が無効です。
391	VPN 指定が無効です。
392	セッションの現在の VPN を削除できません。
393	プロパティが重複しています。
394	vpn-id 指定が無効です。
395	リースにスコープ ポインタがありません (内部エラー)。
396	vpn-id 指定が無効です。
397	式が長すぎます。
398	メモリ不足です。
401	ログインに失敗しました。
402	権限が拒否されました。
403	データベースをロックできませんでした。
404	ログインが必要です。
405	ライセンス キーが無効です。
406	この操作にはロックが必要です。
407	ロックが解除できません。
408	ロックを取得できません。
409	スタティック アドレス プールをロックできませんでした。
501	接続障害が発生しました。
502	サーバ障害が発生しました。
503	クラスタ バージョンに関する障害が発生しました。
504	ライセンス キー タイプが誤っています。ローカル クラスタ キー タイプが必要です。
504	ライセンス キー タイプが誤っています。リージョナル キー タイプが必要です。
505	誤ったクラスタ タイプに接続しました。
506	オプション ID が重複しています。
507	オプション名が重複しています。
508	vendor-option-enterprise-id が重複しています。

表 4-2 エラー コード（続き）

番号	説明
509	vendor-option-string が重複しています。
510	バージョンが一致しません。
511	バージョンが見つかりません。
512	オブジェクトが不完全です。
513	アトリビュートが不完全です。
514	NLIST が不完全です。
515	繰り返しカウントが無効です。

インポートとエクスポートのファイル形式

この項では、インポート リースとエクスポート リースのファイル形式について説明します。

構文は次のとおりです。

field1|field2|field3|...

フィールドについては次で説明します。インポート ファイルでオプションのフィールドの情報を指定しない場合は、デリミタ（|）を使用してフィールド数を 12 に保つ必要があります。たとえば xyz|abc|123 と入力します。

- MAC アドレス。xx:xx:xx:...:xx の形式（必須）
- MAC アドレス タイプ（必須）
- MAC アドレスの長さ（必須）
- IP アドレス。a.b.c.d のようにピリオドで区切られた 10 進形式（必須）
- リース開始時刻（GMT）（オプション）
- リース期限満了時刻（GMT）（オプション）
- 延長可能時間（GMT）（オプション）
- 最終トランザクション時刻（GMT）（オプション）
- DHCP サーバの IP アドレス（オプション）
- ホスト名（ドメインなし）（オプション）
- ドメイン名（オプション）
- クライアント ID（オプション）
- VPN（オプション）



(注)

すべての時間フィールドでは、1970 年を起点とした秒数か、曜日、月、日、時刻、年の形式（Mon Apr 13 16:35:48 1998）のどちらかを使用できます。

